

平成29年度

島原市における 家庭教育に関するアンケート

～ 平成29年1月調査 ～

【 調 査 結 果 】



平成29年5月

島原市社会教育委員の会

島原市教育委員会社会教育課

調査と集計等について

1. 将来を担う子どもたちを取り巻く環境が変化し、子どもに関わるさまざまな問題が起こっている。家庭教育の充実は、島原市の教育方針にある「心豊かでたくましく生きる子どもたち」の育成に直結する課題と言える。
そこで、島原市の家庭教育に関する現状をより深く把握し、課題解決の糸口を見つけるため、アンケート調査を実施した。
2. 本調査の対象は、現在、直接、育児や子育てに関わっている島原市内の保育園（所）・幼稚園等（以下「園」と示す）及び小学校、中学校の保護者とし、一部を抽出（全849人）して実施した。
3. 調査の集計は、「園」「小学校」「中学校」の『個別』集計と、三者の『総数』集計を行った。本冊子は、主として『総数』集計の結果に基づいてまとめを行ったが、必要と思われる項目については、『集計結果』と表示して『個別』集計の結果を示した。また、一部の調査項目においては、「全国調査結果」を紹介することとした。
なお、※の表記は、「社会教育委員の会」による考察である。
4. この調査の実施期間は、「平成29年1月20日～1月31日」である。

【問1】 最近の「家庭の教育力は低下している」と思いますか。

〔どれか一つに○〕

計	
回答数(人)	%

1	まったくその通りだと思う (問2以降へ)	67	8.2
2	ある程度そう思う (問2以降へ)	275	33.8
3	どちらとも言えないと思う (問4以降へ)	270	33.2
4	あまりそうは思わない (問4以降へ)	144	17.7
5	まったくそうは思わない (問4以降へ)	14	1.7
6	分からない (問4以降へ)	35	4.3
7	無答等 (問4以降へ)	8	1.1
計		813	100.0



- ※ 『家庭の教育力の低下』が社会的に課題とされているが、島原市は、「家庭の教育力は低下している」は42%で、全国調査に比べてかなり少なくなっている。
- ※ 一方で、「どちらとも言えない(33.2%)」は全国調査に比べて多くなっている。『十分ではないが、自分としてはかなりがんばっている』という気持ちが、数値に表れているのではないか。

参考 最近の「家庭の教育力は低下している」と思いますか。

全国調査 [国立教育政策研究所「家庭の教育力再生に関する調査研究」]
[全国/子と同居する親/25歳～54歳/12000人/平成13年]

[A:まったくそうは思わない
B:分からない/無答等]

まったくその通りと思う 17.8%	ある程度 そう思う 49.4%	どちらとも 言えない	10.5%	B
67.2%		17.9%		A

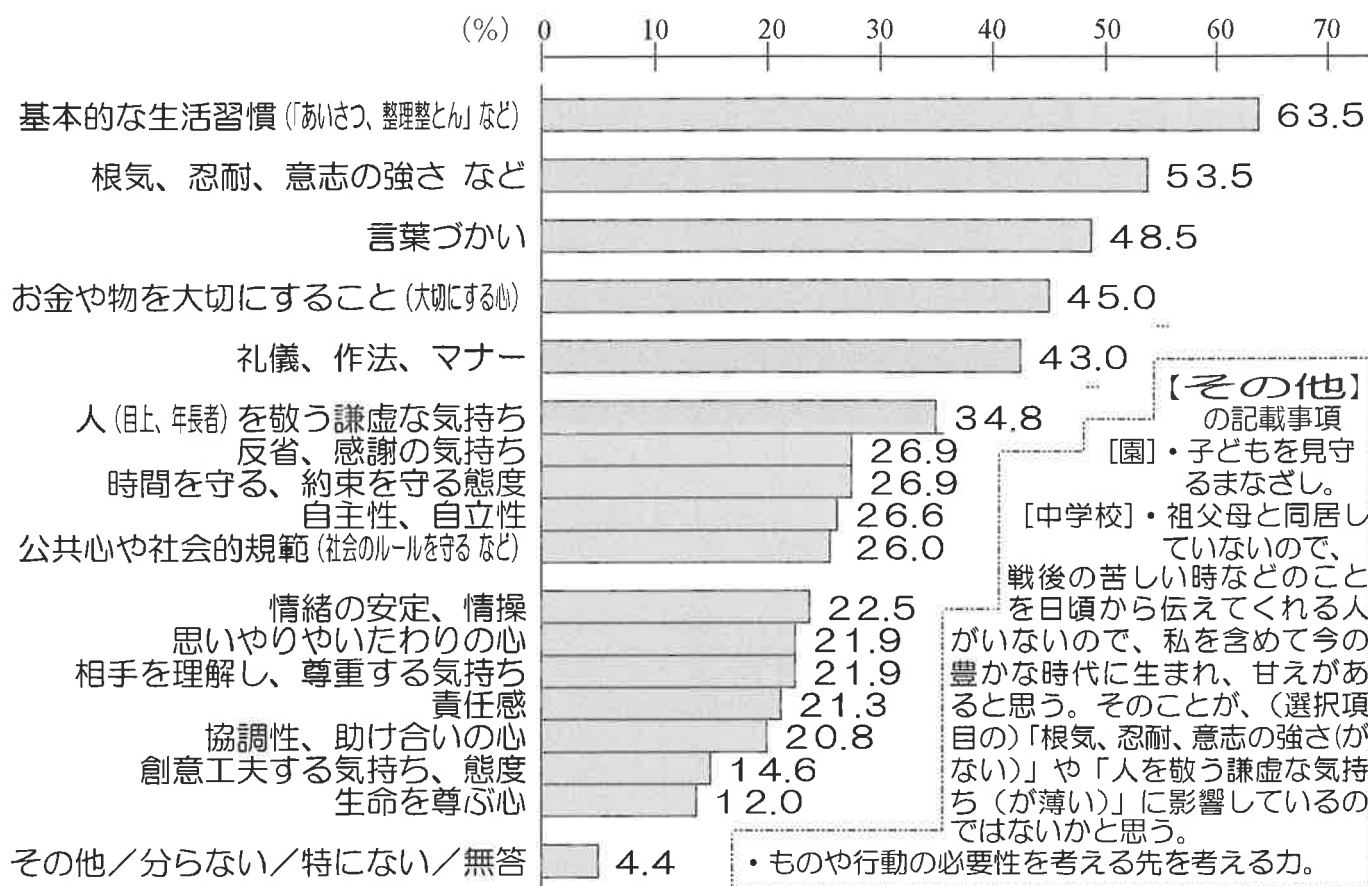
[全国/20歳以上/無作為8400人/国立教育政策研究所/平成19年]

まったく その通り と思う 37%	ある程度 そう思う 45%	どちらとも 言えない		B
82%		10%		A

〔問2〕 〔問1〕で『1・2』(=家庭の教育力は低下している)と答えた「342名」の方へ

「家庭の教育力が低下している」と思われる点は どんなことですか。

[あてはまるものに○]



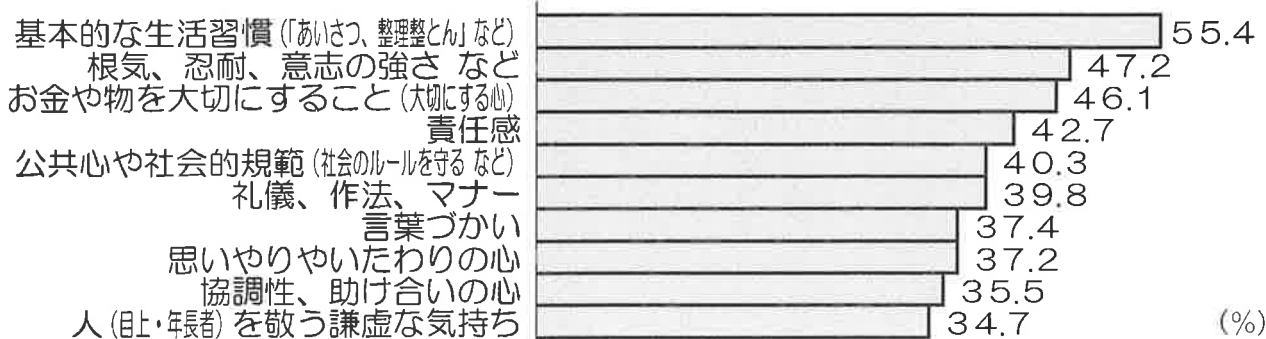
- ※ 子ども達に、発達段階相応の『基本的な生活習慣』が身に付いていないことは広く指摘されているが、島原市においてもその認識に変わりがない結果となっている。
- ※ 各項目の結果は全国調査とほぼ同じ傾向で、子を持つ保護者が、子ども達を見る目、課題ととらえる視点は全国共通とも言える。

(参考)

全国

[青少年と家庭に関する世論調査/「家庭の教育力が低下している」と答えた人]
 [上位10項目/全国20歳以上/無作為抽出/総理府(現内閣府)/平成5年]

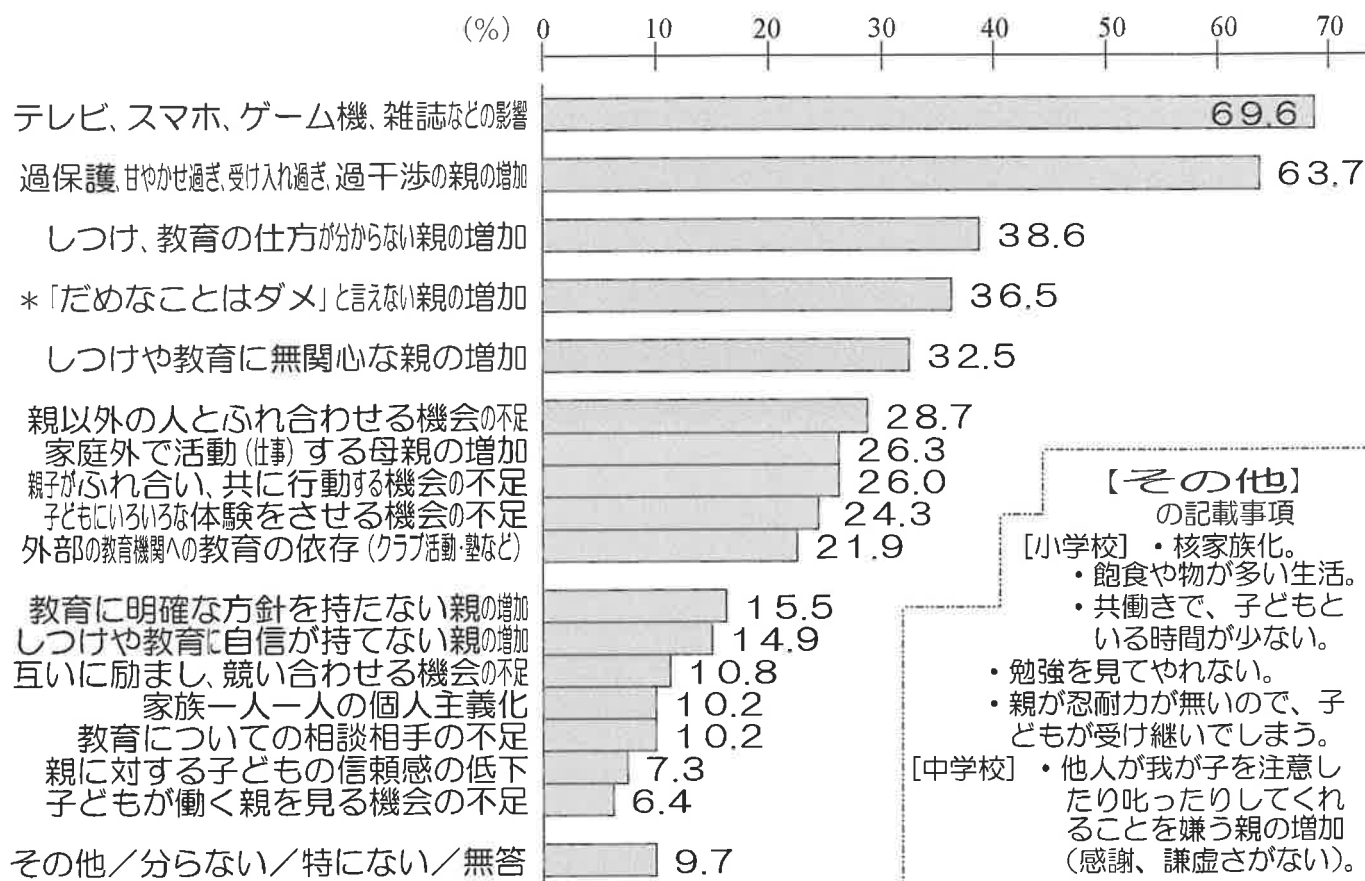
《家庭の教育力が低下している》と思われる点はどんなことですか。



【問3】 【問1】で『1・2』（＝家庭の教育力は低下している）と答えた「342名」の方へ

「家庭の教育力が低下している」理由（要因）は どんなことと思いますか。

【あてはまるものに○】



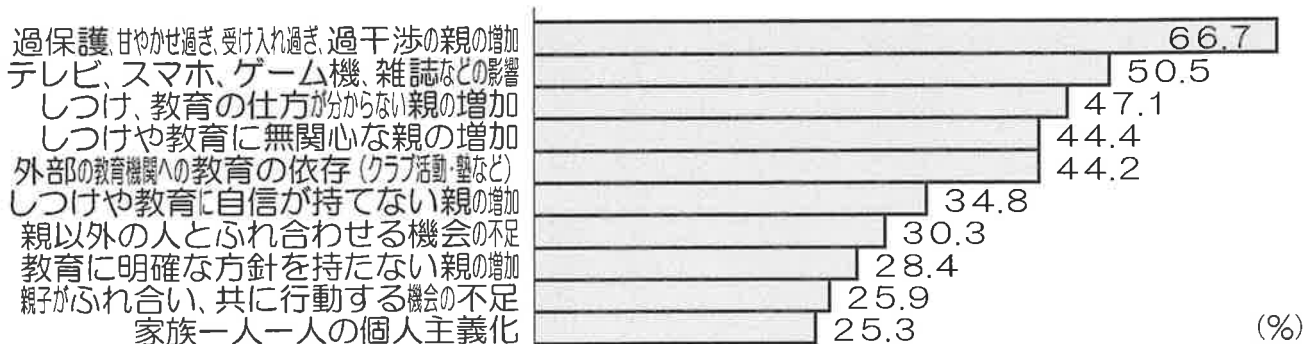
- ※ 回答者の多くが母親だが、上の結果を見ると、母親の“悩み”と“反省”そして、“お父さんの出番ですよ”とのつぶやきが聞こえるようでもある。
- ※ 「母親の就労の増加」が26.3%あるが、特に母親は、時間に追われながら忙しい中で子育てをしている。家庭の教育力低下の要因は自覚しながらも、つい見逃すことがあるのではないかと推測される。
- ※ 回答の第4位（*印）は、本調査独自設定の選択肢である。（全国調査には無い）

（参考）

全国

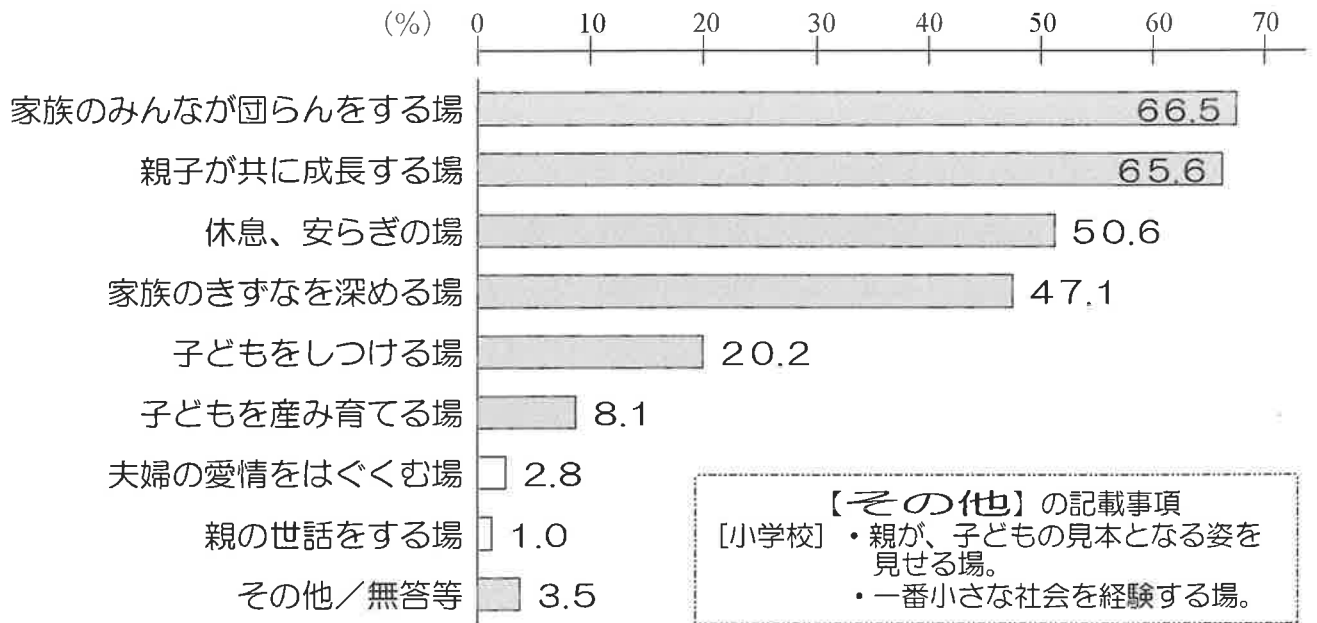
【家庭の教育力再生に関する調査／子どもと同居する親：25歳～54歳】
[「家庭の教育力が低下している」と答えた人を対象にした「上位10項目」]
【全国無作為抽出／12000人／総理府（現内閣府）／平成5年】

《家庭の教育力が低下している》理由（要因）は どんなことと思いますか。



〔問4〕 家庭は どのような役割を持っていると思いますか。

〔おもなものに○(3つ以内)〕



- ※ 『親子が共に成長する場』は65.6%で、全国調査に比べて島原市は30ポイント近く高く、子どもの成長に家庭（親・保護者）が果たす役割が強く意識されている。
- ※ 『親子が共に成長する場』の高い回答率に比べ、『子どもをしつける場』は20.2%で、必ずしも高いとは言えない。
 特に、「園児の保護者＝12.2%」「小学生の保護者＝23.9%」「中学生の保護者＝23.0%」となっており、就学前のしつけの大切さを考えるとき、一つの課題と見ることができる。

(参考)

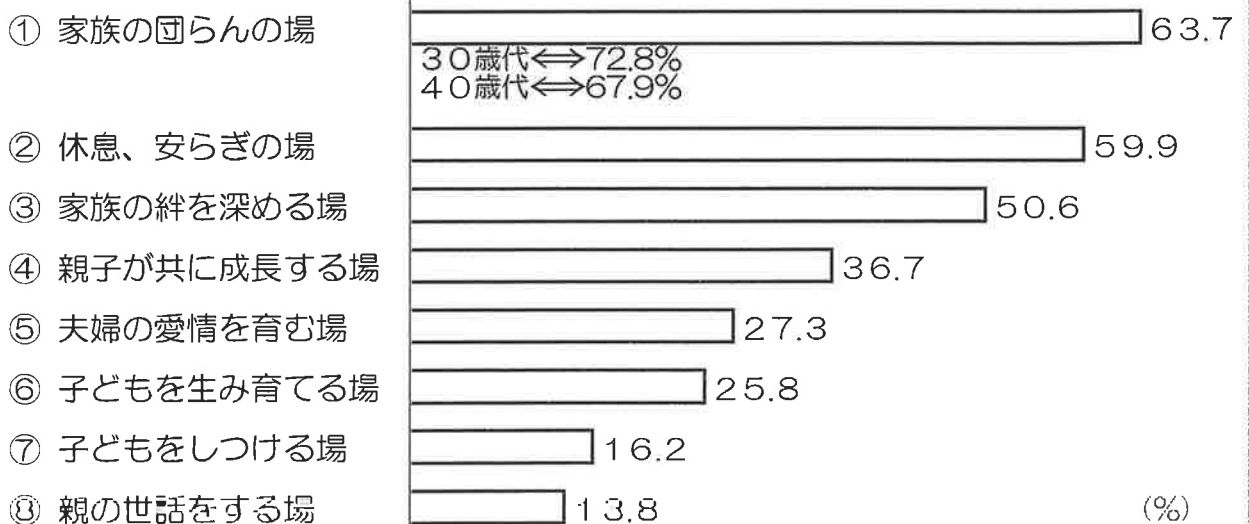
全国

〔平成28年国民生活に関する世論調査／全国20歳以上／内閣府〕

〔全8項目から選択（複数可）〕

〔無作為抽出／10000人／平成13年から毎年調査〕

《 家庭は どのような役割を持っていると思いますか 》



〔問5〕 お子さんの「基本的な生活習慣」は いつ身に付けたいと思いますか。

〔どれか1つに○〕

言十 (%)			
1	小学校に入学するまでに	41.5	85.4
2	小学校を卒業するまでに	43.9	
3	中学校を卒業するまでに	6.6	92.0
4	成人(20歳)になるまでに	2.1	
5	生涯を通して	3.7	
6	その他、無答等	2.2	
計		100.0	

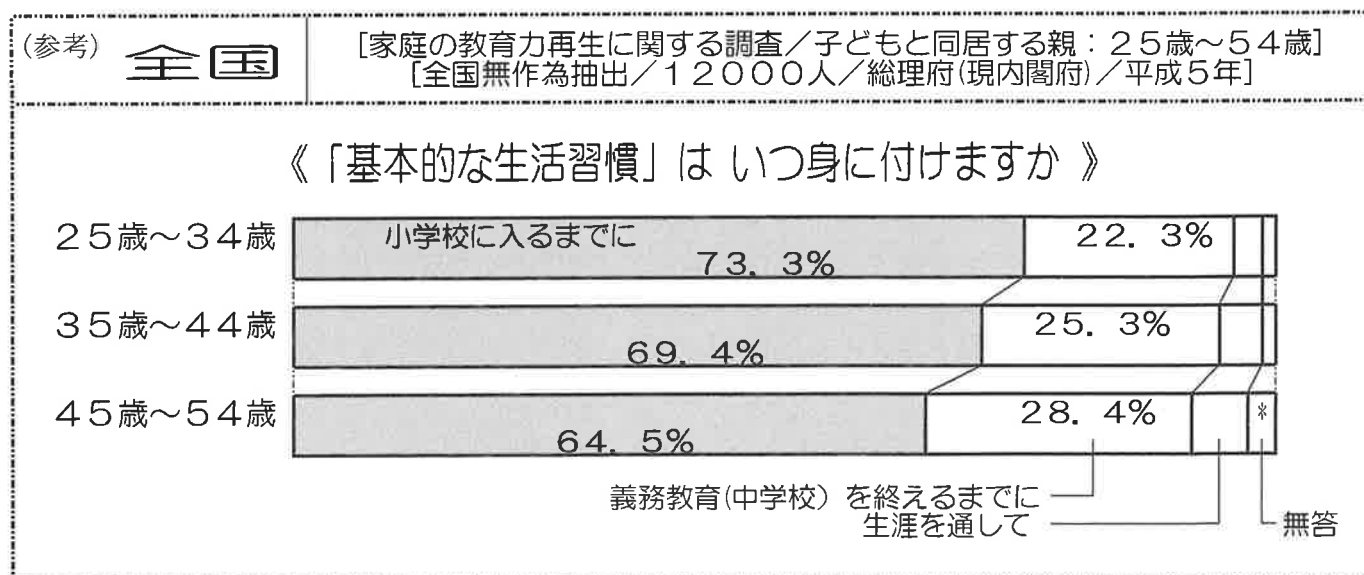
【その他】の記載事項
 [小学校] ・3歳までに。
 ・小学校に入学してから。
 ・子どもそれぞれに違いがある。その時々で違いがあると思う。

※ 上表の「1・2・3」を詳しく見ると、次のような結果となっている。

		(%)	園 等	小学校	中学校
1	小学校に入学するまでに	(▲1)	58.5	32.6	37.4
2	小学校を卒業するまでに		33.7	(▲2) 52.7	38.5
3	中学校を卒業するまでに		0.8	7.4	(▲3) 13.2

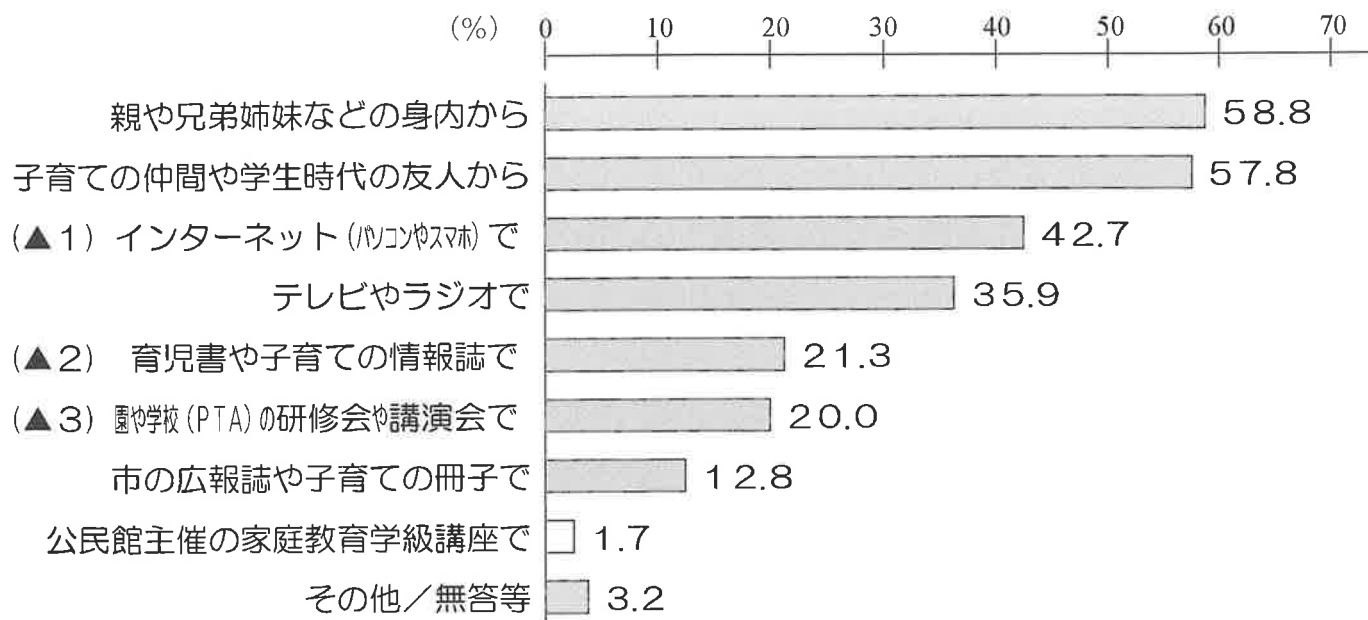
基本的な生活習慣は、その多くの態度化が小学校に入学するまでに成されることが求められていることを考えると、全体の41.5%、及び「▲1」はもっと高い結果が期待される。

※ 「▲2」「▲3」は、それまでに、基本的な生活習慣を子どもの身に付けさせることが不十分だったので「この時期までには…」という気持ちの表れとも考えられる。



〔問6〕 あなたが子育ての情報を得る時には どのような手段を利用しますか。

〔おもなものに○(3つ以内)〕



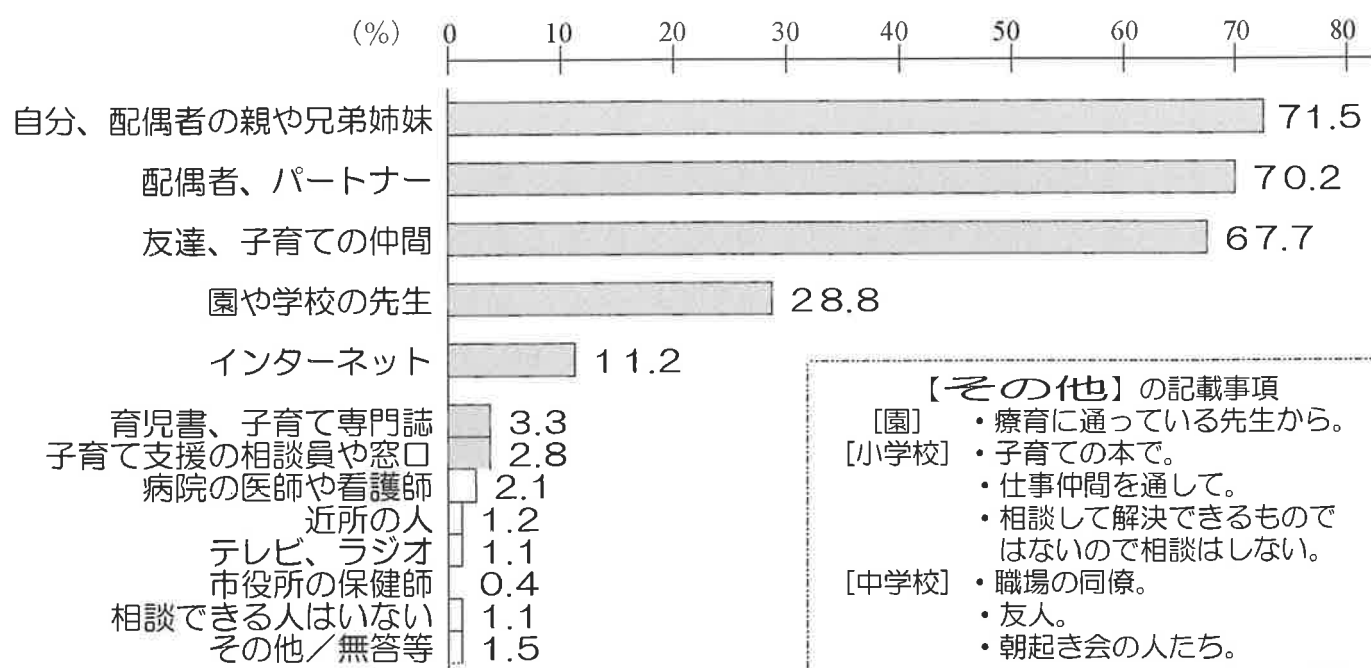
【その他】の記載事項	
〔園〕	・ 保育園の先生から。 ・ 職場の同僚から。
〔小学校〕	・ 子育ての本を買ったり、図書館で借りたりして。 ・ 学校のPTA役員会などで先輩のママから。 ・ 職場の同僚から。
〔中学校〕	・ 担任の先生に相談する。 ・ 子どもと同じクラスの保護者から。 ・ 文庫本で。

- ※ 情報の入手先としては「親や兄弟姉妹などの身内」「子育ての仲間や学生時代の友人」など、身近な人で、他者とのコミュニケーションによることが多い。
- ※ 「研修会や講演会」「市の広報誌や子育ての冊子」はかなり少なく、特に「公民館主催の家庭教育学級講座」は極端に少なくなっている。
- ※ 親（保護者）は忙しい中で子育てを行っている。身近なところで、気軽に情報が収集できる方法が求められる。
- ※ 上表の「▲1・▲2・▲3」は、次のような特徴を示している。

	(%)	園 等	小学校	中学校
▲1	インターネット(パソコンやスマホ)で	54.1	41.2	29.9
▲2	育児書や子育ての情報誌で	26.4	20.4	16.1
▲3	園や学校(PTA)の研修会や講演会で	15.4	21.1	24.1

〔問7〕 あなたが子育てで悩みごとがある時の 相談先や解決方法の入手先を教えてください。

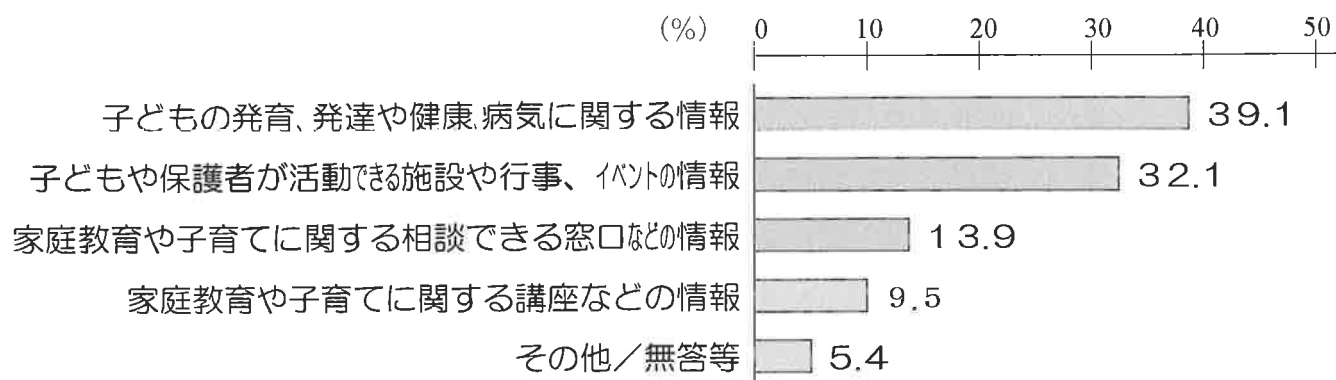
〔おもなものに○(3つ以内)〕



※ 「親・兄弟姉妹・配偶者・パートナー」への相談が多くなっている。家庭内での子育て協力、そのためのコミュニケーションがとれていることがうかがえる。

〔問8〕 家庭教育・子育てに関して どのような情報が欲しいですか。

〔おもなもの1つに○〕

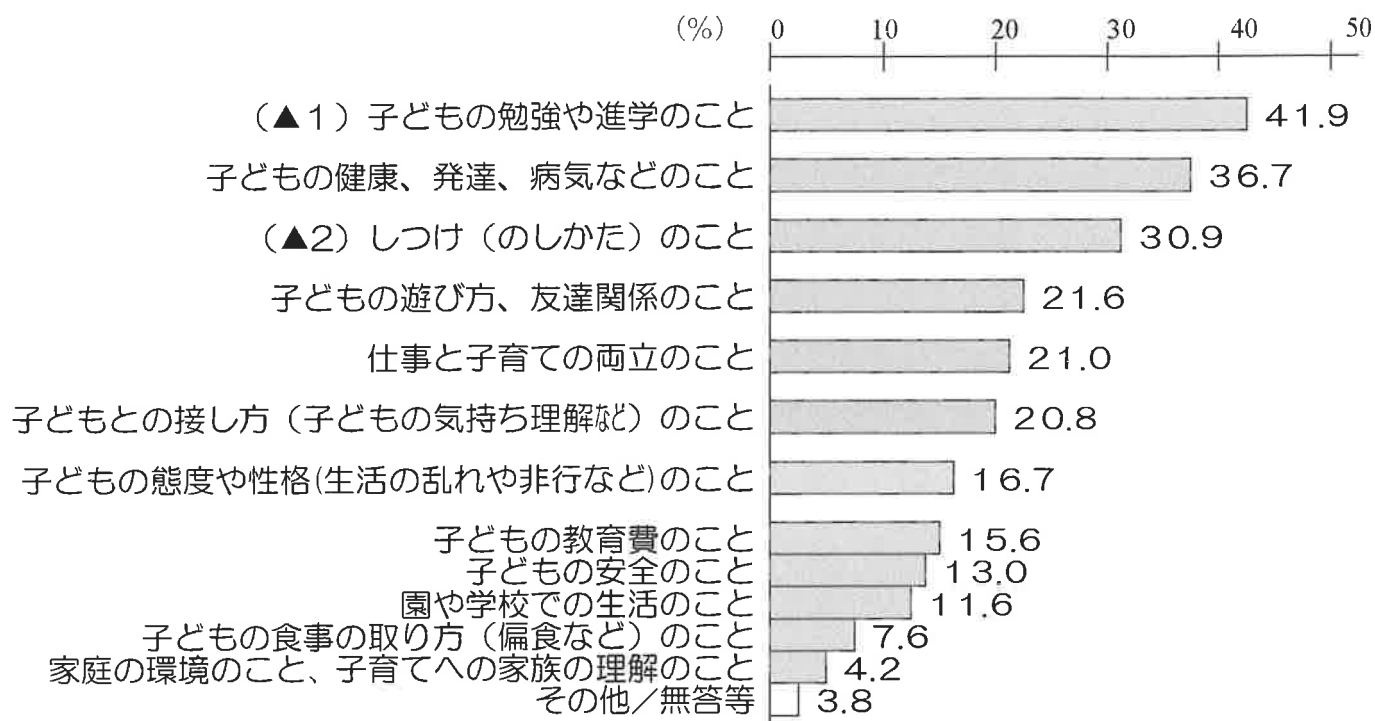


【その他】の記載事項	
〔小学校〕 *1	各家庭がどのようにされているかの情報。
*2	親である私たちが自己成長を学べる機会。例えば「講座」等の開催情報。
*3	他県から来た親にとって、地域の学校等の情報が少ないと思う。 (子どもの進路相談に乗ってやれない)
〔中学校〕 *4	同居の高齢者が間違った知識で子どもに関わるのを改善するための情報。
*5	24時間、365日、いつでも相談できる窓口。 ・現実とかけ離れた情報は要らない。

※ 【その他】の「*1.*2.*3.*4.*5」等は、少数意見ではあるが、情報提供の内容、方法として考慮しておきたい事項といえる。

〔問9〕 家庭教育や子育てで 何が心配（不安）ですか。
また 実際に悩んだり困ったりしたことはどんなことですか。

〔おもなものに○（3つ以内）〕



【その他】の記載事項

- 〔園〕 ・いつも時間に追われて、子どもと一緒に過ごせないこと。
・子どもが病気したとき、医療機関が遠方であること。
- 〔小学校〕 ・近所に遊び場がないこと。
・今のままの接し方、育て方で良いのか、時どき考えます。

※ 家庭教育や子育てで、親（保護者）は多様な悩み事を抱えている。
また、「▲1」は「園の保護者」の16.3％に対し「中学校の保護者」は64.9％、
「▲2」は「園の保護者」の42.9％に対して「中学校の保護者」は19.0％で、
心配や悩みは、子どもの発達段階が大きく関わっていることが分かる。

（参考）

全国

「家庭教育の活性化支援等に関する特別調査研究」／ H20／文科省
0歳から18歳の子を持つ「20歳～54歳」の父母／全国約3000人

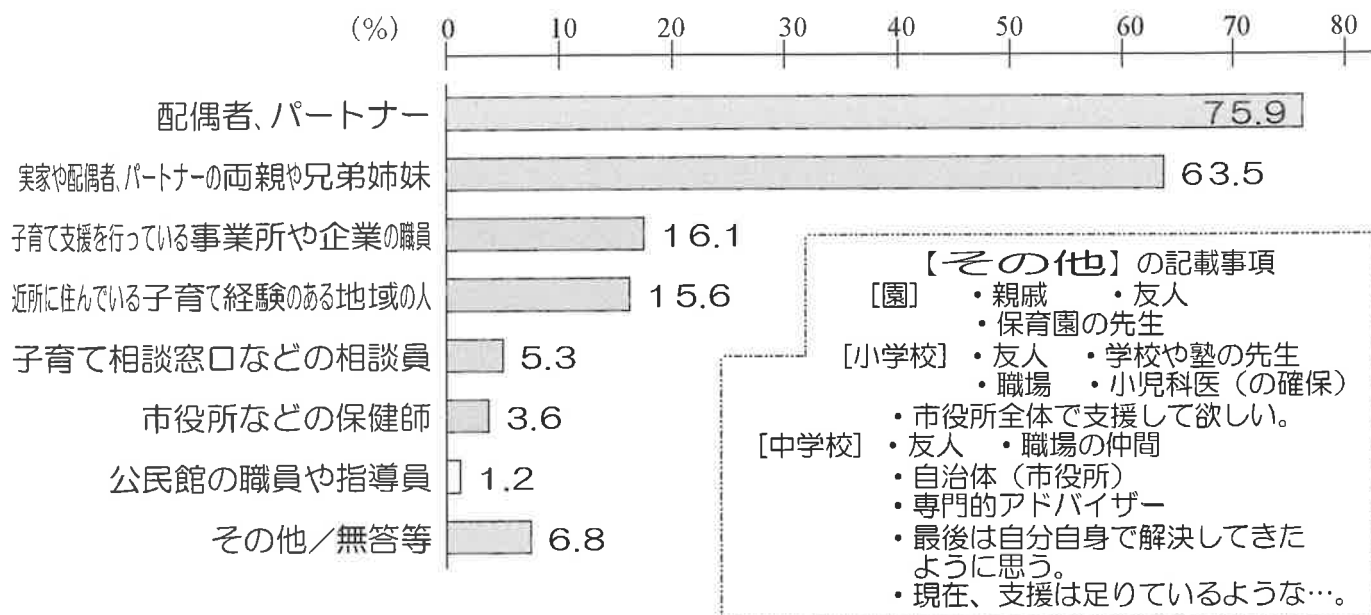
★ 子育てに不安はありますか

- ・悩みや不安がある 37.2％
・悩みや不安はあまりない 55.9％
・悩みや不安はまったくない 6.9％

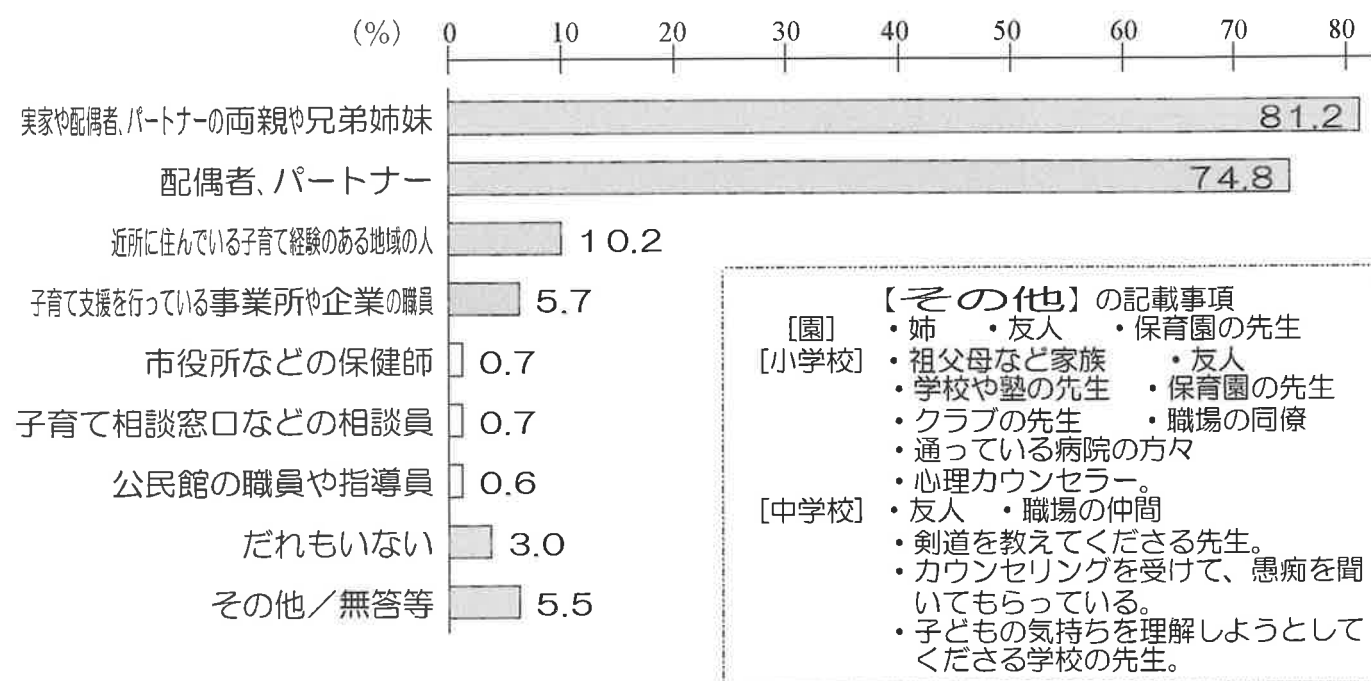
- | | | |
|---|----------------------|-----|
| ① | 子どものしつけやマナーのこと | 48％ |
| ② | 子どもの勉強や進学のこと | 45％ |
| ③ | 子どもの健康や発達のこと | 37％ |
| ④ | 子どもの教育費のこと | 35％ |
| ⑤ | 子どもの性格や癖のこと | 34％ |
| ⑥ | 子どもの友人関係のこと | 13％ |
| ⑦ | 子どもの反抗的な態度への親の接し方のこと | 12％ |
| ⑧ | 子どもとのコミュニケーション不足のこと | 11％ |
| ⑨ | 子どもの気持ちが分からないこと | 10％ |
| ⑩ | 子どもの生活の乱れや非行のこと | 8％ |
| ⑪ | 子どものいじめのこと | 7％ |
| ⑫ | 子育てへの家族の協力が得られないこと | 5％ |

悩みや不安は
どのようなことですか
（「悩みや不安がある」
と答えた人へ）

〔問10〕 あなたが 家庭教育や子育てに関して支援をして欲しいのは誰ですか。〔おもなものに○(3つ以内)〕



〔問11〕 実際に あなたの家庭教育や子育てを支援してくれるのはだれですか。〔おもなものに○(3つ以内)〕



- ※ 子育てを支援して欲しい人と実際に支援してくれる人の両方で、「配偶者・パートナー」「自分や配偶者・パートナーの両親や兄弟姉妹」が高い結果となっている。
- ※ 「自分や配偶者・パートナーの両親や兄弟姉妹」に支援して欲しいは63.5%だが、『実際に支援してくれる』は10ポイントあまり高くなっている。
- ※ 「子育て支援を行っている事業所や企業の職員」に支援して欲しいという割合に比べ実際にしてくれる割合は10ポイント余り低い。
- ※ 「近所に住んでいる子育て経験のある地域の人」に支援して欲しいの15.6%は、当初予想を超える結果である（「園の保護者」=22.0%）
- ※ 「関係事業所の窓口」「保健師」「公民館の職員」への支援期待の存在を大事にしたい。

〔問12〕 島原市内には 子育てや家庭教育についての悩みなどを相談することができる
 次のような機関やしきみがあります。

〔どれか1つに○〕

- ・「少年センター」「保健センター」「市の子ども課」「市民相談センター」などの機関
- ・「民生委員児童委員」「人権擁護委員」などの仕組み

このような機関やしきみを利用したことがありますか。

		(%)	園	小学校	中学校	計
1	知っていて 利用したことがある		15.9	15.0	11.5	14.5
2	知っていたが 利用したことはない		56.5	59.0	69.0	60.4
3	知らなかった(利用したことはない)		19.9	16.8	15.5	17.5
4	無答等		7.7	9.2	4.0	7.6
計			100.0	100.0	100.0	100.0

※ 「知らなかった」が17.5%である。周知の工夫が求められる。

※ 「利用したことはない」の『2・3』を合わせると77.9%の高い数値である。
 親（保護者）の悩みに応えるという機能が十分に活用されていない状況にある。

〔問13〕 島原市内では 家庭教育支援のために次のような講座を開いています。

- ・「思春期子育て講座」「健康教育講座」「各地区ごとの家庭教育学級」「女性学級」「母子保健講演会」「わくわく交流会」「子育て応援講演会」

このような講座が開かれていることを知っていましたか。

〔どれか1つに○〕

		(%)	園	小学校	中学校	計
1	知っていて 参加したことがある		18.3	16.5	18.4	17.5
2	知っていたが 参加したことはない		32.5	37.2	44.8	37.4
3	知らなかった(参加したことはない)		48.0	44.3	32.8	42.9
4	無答等		1.2	2.0	4.0	2.2
計			100.0	100.0	100.0	100.0

※ 「知らなかった」が42.9%という高く、「参加したことはない」は80%を超える。
 『問12』『問6』の結果と併せて考えると、家庭教育・子育て支援のための
 島原市の各機関・しきみや講座等は、機能化するための工夫が求められる。

〔問14〕 子育てに関する以下の項目（ア～コ）について どこが担当するべきと思いますか。

〔各項目ごとに「家庭」「地域」「学校」のどれかに○（複数選択はそのまま計上）〕

(%)

ア 子どもたちの 登下校時の安全管理	家 庭	16.0
	学 校	30.4
	地 域	① 62.0
	無答等	2.0

力 他人に対しての接し方	家 庭	① 77.5
	学 校	29.6
	地 域	6.4
	無答等	1.6

イ 子育て家庭への見守り	家 庭	① 48.3
	学 校	7.6
	地 域	43.1
	無答等	3.1

キ 学力をつける	家 庭	13.7
	学 校	① 91.5
	地 域	0.4
	無答等	1.6

ウ 生活の中で守るべき ルールを教える	家 庭	① 81.7
	学 校	23.2
	地 域	5.7
	無答等	1.5

ク 学習する習慣をつける	家 庭	① 60.4
	学 校	42.8
	地 域	0.4
	無答等	1.6

エ 子どもたちが 自然の中で遊ぶなどの 体験	家 庭	① 47.7
	学 校	37.1
	地 域	22.5
	無答等	2.1

ケ 子どもたち同士の トラブルの解決	家 庭	36.5
	学 校	① 68.8
	地 域	2.5
	無答等	2.1

オ 食事についての 大切なマナー（食育）	家 庭	① 88.1
	学 校	17.3
	地 域	0.4
	無答等	1.7

コ 子育ての悩みを 相談できる場所の提供	家 庭	7.6
	学 校	21.4
	地 域	① 76.0
	無答等	2.8

- ※ 「問14」は、子どもに関わることについて、主としてどこが手をかけるべきと保護者は思っているかを知るための設問である。
家庭におけるしつけの一つと思われる「ウ・オ・カ」は、それぞれ高い結果を示しており、取り組みの日常化が期待される。
- ※ 「ア・イ・エ」は『地域』の役割への願いが大きいことを示している。地域における連帯意識の希薄化が指摘されるなか、地域の教育的機能の強化が求められる。
- ※ 「ク」の学習習慣の形成は「家庭」が60.4%だが、もう少し高い数値が望まれる。
- ※ 「コ」については、『地域』への期待（76%）がうかがえる。この『地域』には、島原市のしくみや講座等の各種事業、及び関係機関の活動も含まれていることをふまえる必要がある。

〔問15〕 あなたが住んでおられる《地域の教育力》は
ご自身の子ども時代に比べて どのような状態にあると思いますか。

〔どれか1つに○〕

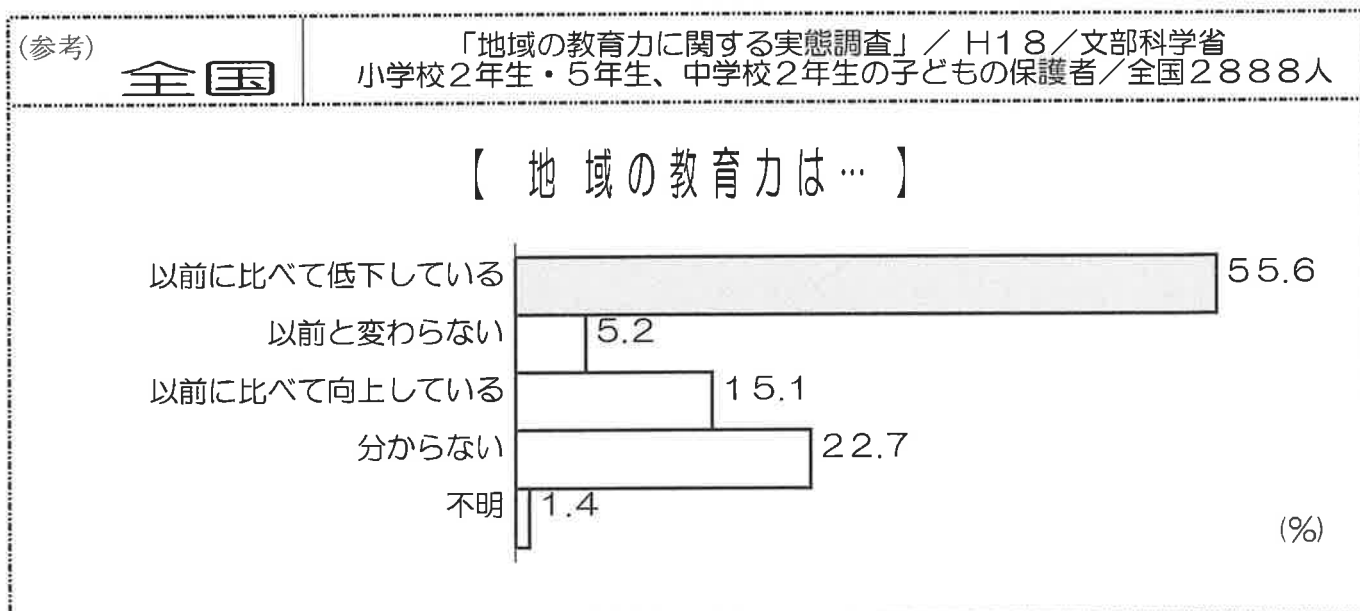
(%)		園	小学校	中学校	計
1	以前に比べて低下している (問16以降へ)	29.3	33.3	35.7	32.7
2	以前と変わらない (問17以降へ)	17.5	21.9	20.7	20.3
3	以前に比べて向上している (//)	4.9	10.4	15.5	9.8
4	その他 (//)	0.4	0.3	1.1	0.5
5	分からない (//)	47.1	29.8	21.8	33.3
6	無答等 (//)	0.8	4.3	5.2	3.4
計		100.0	100.0	100.0	100.0

【その他】の記載事項

- 〔園〕 ・他の地域から嫁いできているので比較ができない。
〔小学校〕 ・子ども時代に育った地区ではないので比較できない。
〔中学校〕 ・他地区から来たので、比較ができない。
・比較できない。自分の子ども時代は新興住宅地区で
あり、現在は農村地帯に生活しているので。

※ 「1. 以前に比べて低下している」は、全国調査より少ないが30%は超えている。

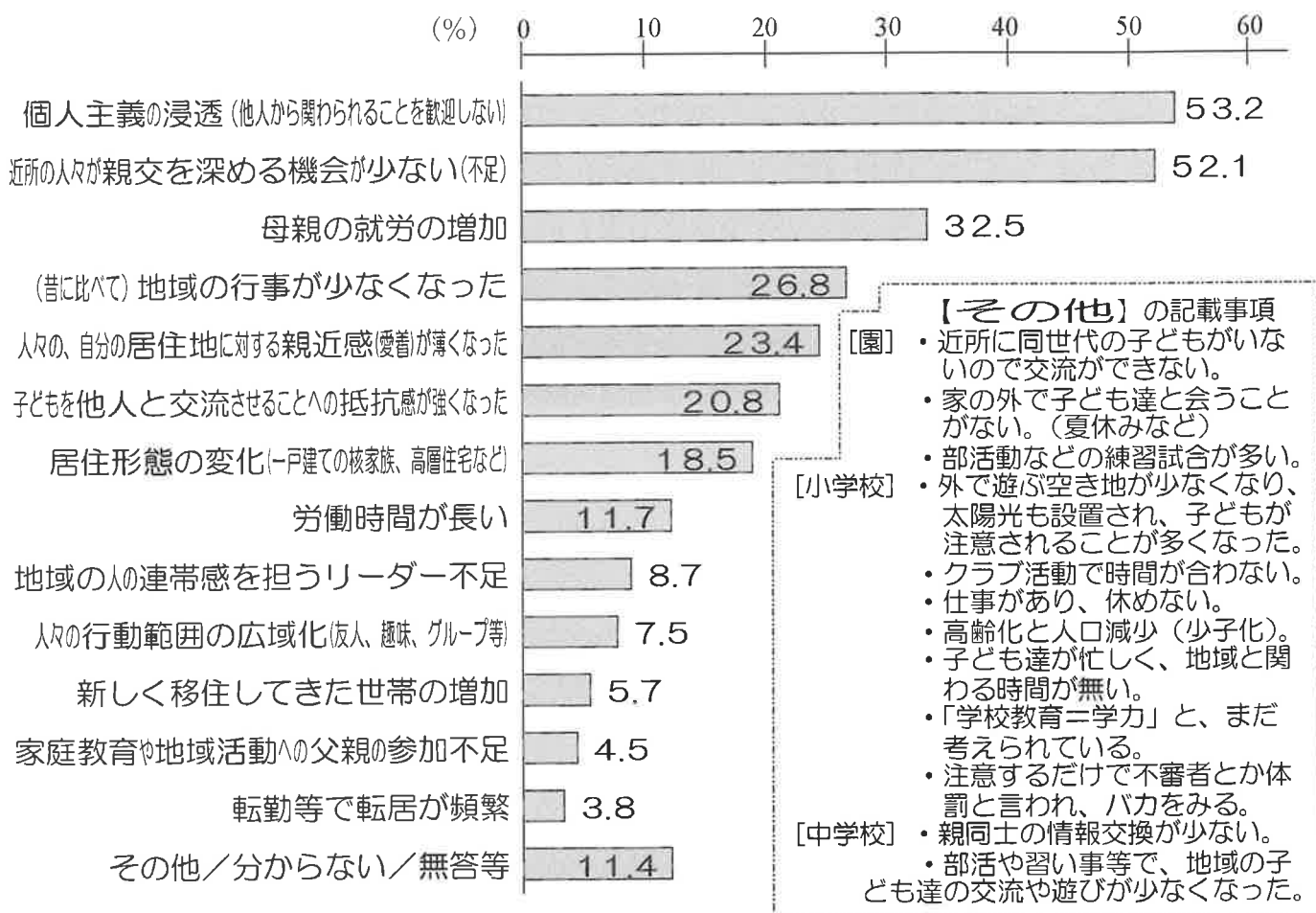
※ 「分からない」の高い回答率は、【その他】に記載されている理由によるとみられる。



【問16】 【問15】で『1』と答えた方へ

「地域の教育力が低下している」理由（要因）は どんなことと思いますか。

〔あてはまるものに○（3つ以内）〕



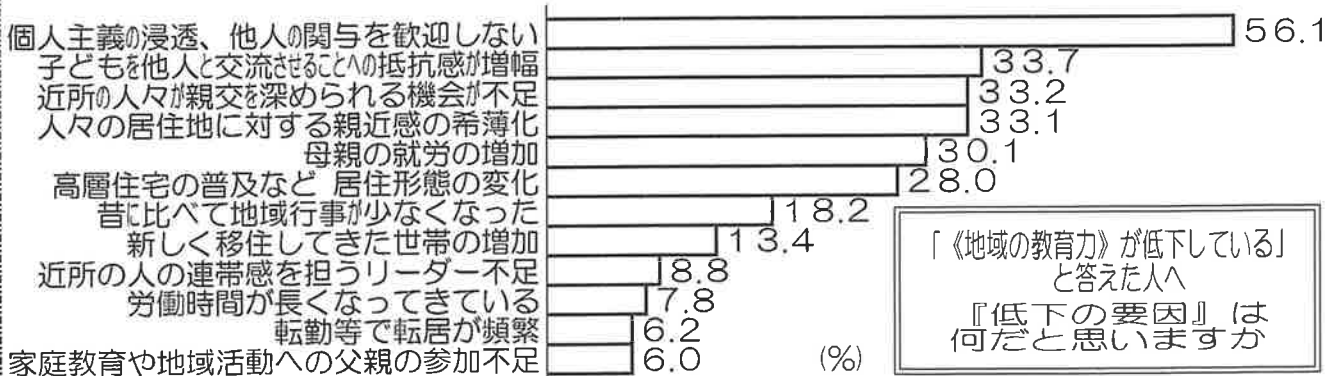
※ 第1位の「個人主義の浸透」は現代社会の象徴的な傾向ではあるが、「関わってもらいたくない」「関わらない（関わりたくない）」という状況の中で、地域の教育力を論じ、期待することの難しさがある。

※ 平成18年の全国調査の結果と比べて、「近所の人々が親交を深める機会が少ない」「地域の行事が少なくなった」が高くなっている。地域の連帯意識が薄くなってきたといわれる背景がうかがえ、地域の教育的機能の衰退の一因が見える。

（参考）

全国

「地域の教育力に関する実態調査」／H18／文部科学省
小学校2年生・5年生、中学校2年生の子どもの保護者／全国2888人



〔問17〕 あなたは、地域の人で子育ての相談ができる人がいますか。

〔あてはまるものに○〕

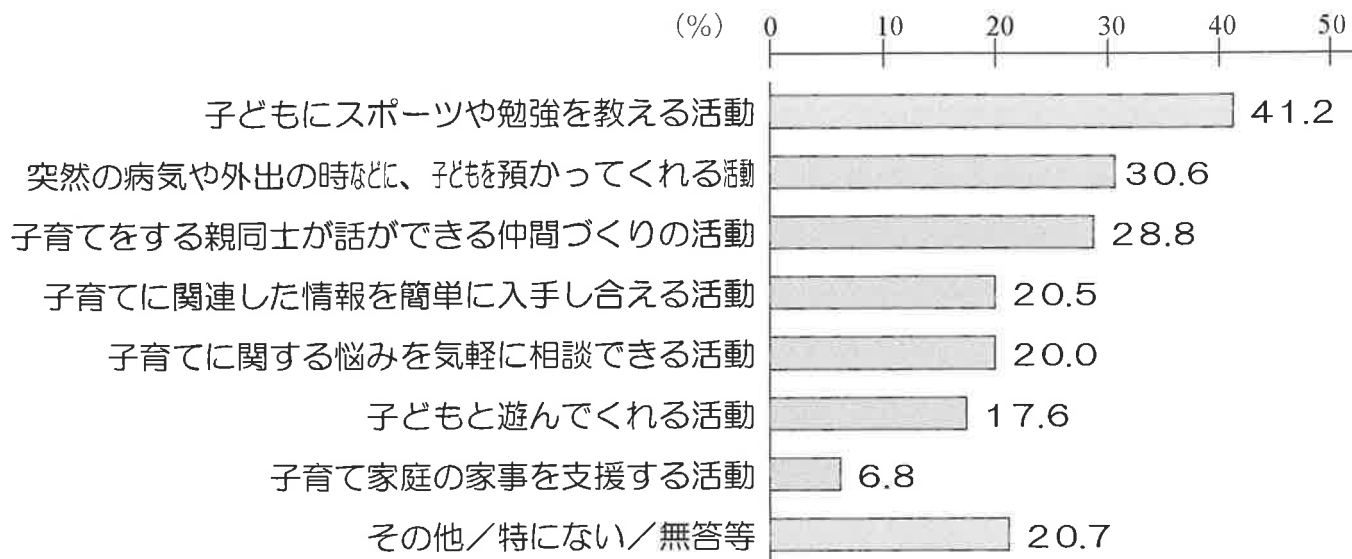
		(%)	園	小学校	中学校	言十
1	自分が住んでいる「町内会・自治会」にいる	17.1	22.4	17.8	19.8	
2	自分が住んでいる「地区」にいる（「町内会・自治会」以外）	13.8	15.0	17.8	15.3	
3	自分が住んでいる地区以外の「他地区」にいる	24.8	17.0	19.5	19.9	
4	いない	41.5	49.1	42.5	45.4	
5	無答等	2.8	3.8	6.3	4.1	

※「1・2・3」と答えた人へ 【 どのような人ですか 】				(人)
	園	小 学 校	中 学 校	
1	・子育て中の友人 5 ・同じ園の保護者 4 ・自分の同級生(友人)の親 3 ・近所の方(子育て経験者) 3 ・叔父、叔母 2 ・隣の家の人 2 ・自分と同年代の母親 1 ・職場の同僚 1 ・主人の友達 1 ・先輩 1	・子どもの同級生の保護者 9 ・友人 8 ・近所の人 8 ・ママ友先輩 7 ・子どものクラブの保護者 6 ・町内会の人 5 ・民生委員児童委員 2 ・子育て中の人 2 ・同級生 2	・友人 7 ・同年代の母親 3 ・近所の人 2 ・町内会の母親 2 ・近所の年長者 2 ・子どもの同級生の保護者 1 ・子ども会の知り合い 1 ・同保育園の保護者 1 ・妹 1	
2	・同じ園の保護者 6 ・友人 6 ・知人 3 ・サークルの子育て経験者 1 ・主任児童委員 1 ・児童館の先生 1 ・先輩 1 ・叔父 1	・同級生のお母さん 8 ・友人 8 ・同じクラブの保護者 3 ・知人 3 ・保育園や学校の先生 2 ・先輩のお母さん 2 ・近所の人や隣人 2 ・子育て仲間 2 ・職場の同僚 2 ・姉や妹 2	・友人 6 ・子育て支援をしている友人 1 ・子どもの同級生の保護者 1 ・子どものクラブの保護者 1 ・保育園のママ友 1 ・子育て友達 1 ・両親 1 ・兄弟 1	
3	・友人 15 ・職場の同僚 7 ・同じ園の保護者 2 ・児童館の先生 2 ・子育て中の自分の同級生 1 ・自分の両親姉妹 1 ・知人 1	・友人 13 ・親 4 ・子育て仲間 3 ・職場の子育て体験者 2 ・担任の先生 2 ・知人 2 ・姉 2 ・親戚 1	・友人 6 ・職場の同僚 4 ・子どもと同級生の母親 1 ・子どもの友達の母親 1 ・子育て仲間 1 ・自分の両親 1 ・塾の先生 1 ・親戚 1 ・先輩 1	

- ※ 「地域の人で子育ての相談ができる人はいない」保護者は45.4%に上る。
「問11」の『子育て支援者』は、配偶者・パートナーや祖父母等の身近な人が多く
なっており、この結果はうなずける数値と言えよう。
- ※ 「問19」の『地域の人との交流・関わり』では、「あまり多くない」「ほとんどない」「全くない」を合わせると49.3%で、交流が薄いという結果が出ている。
このことから、「地域の人で子育ての相談ができる人はいない」人が多いことが十分に予想されることである。

〔問18〕 下記の活動で あなたが地域に望む活動はどれですか。

〔あてはまるものに○(3つ以内)〕



【その他】の記載事項

- 〔小学校〕 ・ 子どもの見守り。事故が多いので、登下校時、学校まで一緒に行って欲しい。
・ 伝統行事の継承
・ 子育て以外の体験（男性です）
- 〔中学校〕 ・ 見守り、交通安全
・ 伝統行事の継承
・ 寺小屋の開設

※ 内閣府は平成21年度に「少子化対策に関する特別世論調査」を実施している。この調査の設問に【地域に望む活動】があり、同様の項目で質問したのが「問18」である。

世論調査の上位3項目は次のようになっている。

- ① 子育てに関する悩みを気軽に相談できる活動 60.9%
- ② 子育てをする親同士が話ができる仲間づくりの活動 49.9%
- ③ 突然の病気や外出の時などに、子どもを預かってくれる活動 44.8%

島原市は「子どもにスポーツや勉強を教える活動」の要望が特に多くなっている。

※ 園児の保護者をみると、
「子育てをする親同士が話ができる仲間づくりの活動」は37.4%、
「子育てに関連した情報を簡単に入手し合える活動」は25.2%、
「子育てに関する悩みを気軽に相談できる活動」は24.4%
となっており、いずれも小学生・中学生の保護者を上回っている。

※ 特に、「突然の病気や外出の時などに、子どもを預かってくれる活動」においては、中学生の保護者の21.8%、小学生の保護者の28.2%に対して、園児の保護者は40.7%という高い数値を示している。

【問19】 あなたは 自分が住む町内会、自治会の会合、行事への参加や住人との交流など
日ごろどのように関わっていますか。

【どれか1つに○】

		言十 (%)
1	いつも必ず参加し、地域の方とよく話を交わし、行き来している	5.4
2	できるだけ参加し、地域の方と話を交わす機会を持っている	37.9
3	ときどき参加するが、地域の方との交流（話し）は余り多くはない	25.5
4	ほとんど参加しないし、地域の方との交流（話し）はほとんどない	17.6
5	まったく参加しないし、地域の方との交流（話し）もまったくない	6.2
6	その他・無答等	7.4
計		100.0

【その他】の記載事項

- 【園】
- ・会合や行事には参加しないが、近所の方とはよく話す。
 - ・引っ越してきているので、地域行事等がよく分からない。
 - ・情報があまり入ってこない（分からない）。
 - ・パートナーが参加するので、自分は地域の方との会話はほぼ無い。
 - ・町内の行事には義理の親が参加している。
 - ・小さいときは同年代の子どもがいなくて交流はなかったが、小学校入学を機にできるだけ交流してきた。
 - ・参加する地域行事がない。
 - ・自治会に加入していない。
- 【小学校】
- ・子ども達も参加できる行事には、自分もよく参加している。
 - ・行事自体が少なく、参加者が決まっていって参加しにくい。
 - ・基本的に参加したくない（人見知りなので）。
 - ・参加したいが、仕事で時間が合わない。
 - ・参加はしないが、あいさつ程度。
 - ・子ども達が遊んでいると、酒を飲んだ近所のおじさんが「早く帰りなさい」「教育委員会に言うよ」と脅されるので、子ども達は外で遊べない。どうにかして欲しい。本当に困る。
- 【中学校】
- ・交流は、同居の祖父母がしている。
 - ・町内会の班長など任されている時は、多少の交流はあるものの、それ以外で、会合、行事等は行われているのか、定かではありません。

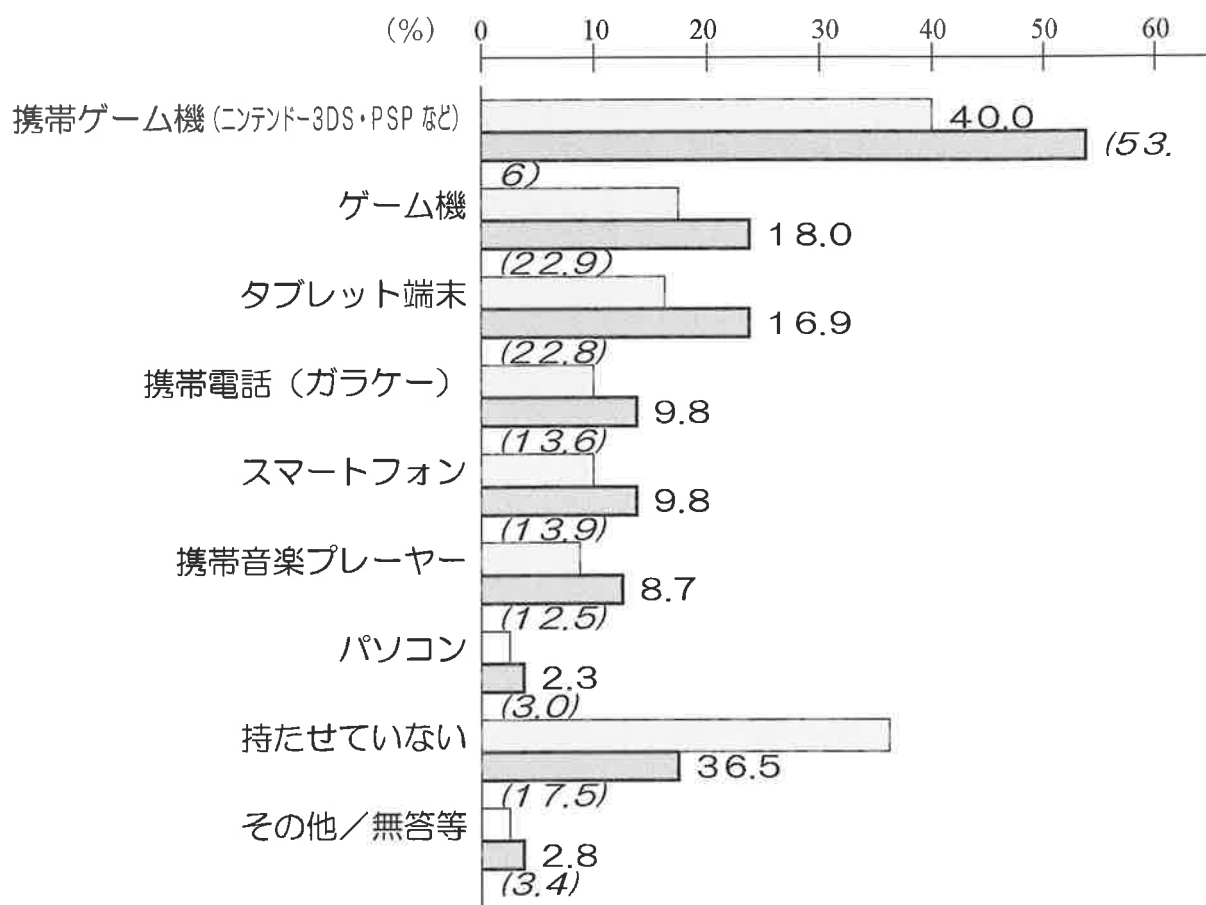
- ※ 「問18」の「3・4・5」は計49.3%だが、町内会・自治会加入率との関係も考えられる。
- ※ 「問18」の選択肢「1・2・4・5」を詳しくみると、次のような結果である。年齢層が低いほど、地域の方との交流（話し）が少ない傾向を示している。

		(%)	園等	小学校	中学校
1	いつも必ず参加し、地域の方とよく話を交わし、行き来している	2.2	6.9	6.3	
2	できるだけ参加し、地域の方と話を交わす機会を持っている	26.0	42.2	44.8	
4	ほとんど参加しないし、地域の方との交流(話し)はほとんどない	27.2	12.2	16.1	
5	まったく参加しないし、地域の方との交流(話し)もまったくない	18.8	2.8	2.9	

〔問20〕 次の各電子機器で 現在 お子さんの所有物として持たせているものがありますか。

〔あてはまるものに○〕

〔()は「小学校・中学校」〕



【その他】の記載事項

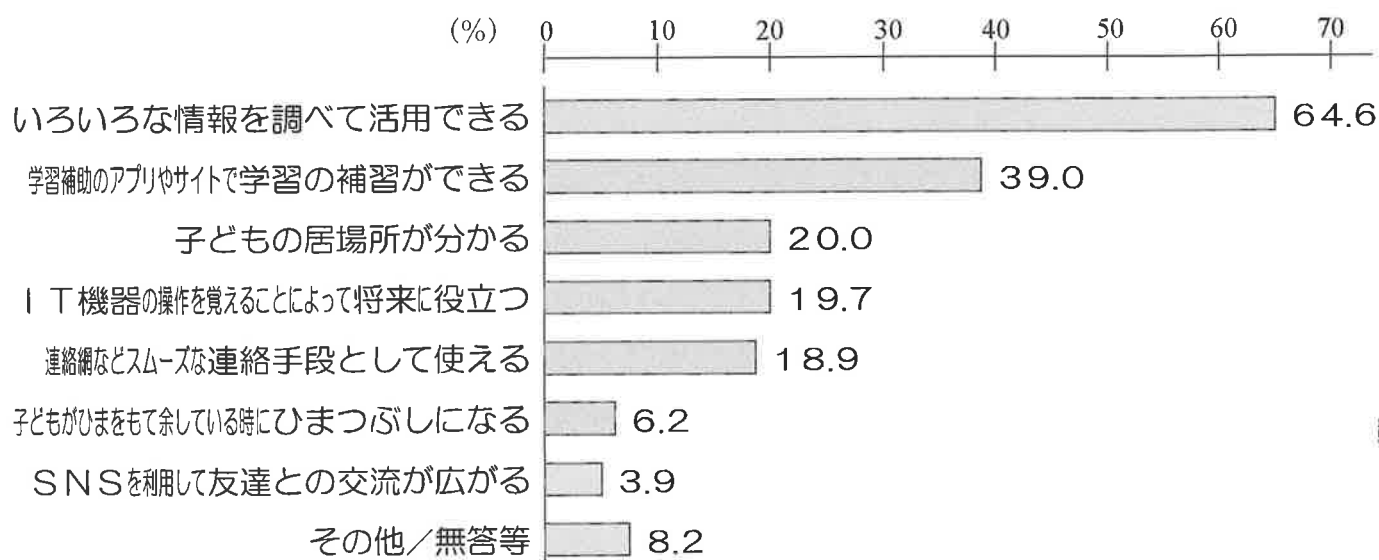
- 〔園〕 ・DVDプレーヤー
- 〔小学校〕 ・i Pad
- ・子ども用携帯 (指定された番号のみ)
- ・見守り携帯
- ・電子辞書
- ・母のものをたまに貸す。
- 〔中学校〕 ・i Pad
- ・キッズ携帯

※ 子どもが所有する電子機器は、学年が上がるにつれて高くなっている。中学生は、「スマートフォン」の所有が24.7%、「タブレット端末」の所有は32.2%に上っている。

※ 携帯電話の保有率の全国調査では、小学生30.6%、中学生47.8%である。
(2014年「中高生の情報通信技術実態調査」(ベネッセ総合研究所))

【問21】 インターネットを 子どもが使用して良いと思うことはどんなことですか。

[あてはまるものに○(3つ以内)]



【その他】の記載事項

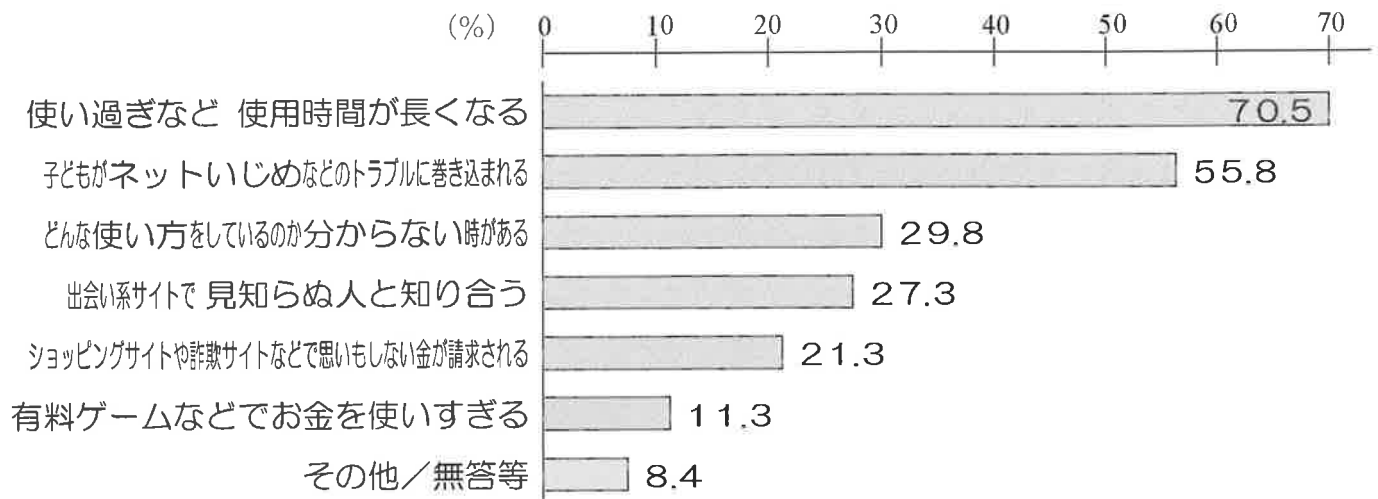
- [園]
 - ・使用しないが良い。
 - ・使用させたくない。
 - ・良いと思うことは無い。
- [小学校]
 - ・外出時、キッズ携帯は便利。
 - ・インターネットはアプリをダウンロードした後に使用させている。子どもはインターネットは使えないので。
 - ・あまり良いとは思わない。
 - ・自分の子どもの年齢からして早すぎる。
 - ・良いとは思いますが、友達が持っているから。
 - ・天気予報を見る以外、他に良いことはない。
- [中学校]
 - ・良いことは無いと思う。
 - ・分からない。

※ 「いろいろな情報を調べて活用できる」が一番多く、中学生の保護者は82.8%が回答している。
また、「学習補助のアプリやサイトで学習の補習ができる」は、中学生の保護者で46.6%となっている。

※ 「子どもの居場所が分かる」は、園児の保護者で30.5%となっている。

[問22] インターネットを、子どもが使用して問題だと思うことはどんなことですか。

[あてはまるものに○(3つ以内)]



【その他】の記載事項

- 【園】**
 - ・何かと依存するようになること。
 - ・周りの世界を見ようとしないこと。
 - ・視力が低下すること。
 - ・親子の会話が減ること。
 - ・犯罪に巻き込まれること。
- 【小学校】**
 - ・知り得なくても良い情報まで入ってくること。
 - ・ネットの先に相手(本当の人間)がいるのに、NPCのように振る舞うことや、道具(ネット)に使われてしまうこと。
 - ・子どもらしくないサイトを見ること。
 - ・ラインの返信に夢中になり、宿題が終わらず、寝る時刻が遅くなること。
 - ・見て欲しくない動画(アダルトサイト)へのアクセス。
 - ・勉強をしない。
 - ・気が短くなり、イライラする。
 - ・心身への影響。
 - ・視力の低下。
 - ・身近になりすぎて、危険性への意識が退化する。
 - ・インターネットは使用させない。
- 【中学校】**
 - ・勉強をしない。
 - ・問題を起こしたことはないが、問題がないとは決められない。

※ 「使い過ぎなど使用時間が長くなる」が一番高い割合(70.5%)を示している。これを詳しくみると、

『園児の保護者 = 65.4%』

『小学生の保護者 = 70.5%』

『中学生の保護者 = 77.6%』

となっており、学年が上がるにつれて割合が高くなっていることが分かる。健康被害や生活の乱れの心配が、この結果になっているのではないかな。

[問23] ニンテンドーDSなどの携帯ゲーム機が、町中などのフリーの無線スポットで、インターネットにつながることを知っていますか。

[どれか1つに○]

		(%)	園	小学校	中学校	計
1	はい (知っています)		46.8	68.2	79.3	64.1
2	いいえ (知りません)		50.0	28.5	17.3	32.6
3	無答等		3.2	3.3	3.4	3.3
計			100.0	100.0	100.0	100.0

※ 保護者の10人に3人余りが、ゲーム機がインターネットにつながることを知らないと回答している。
ゲーム機を通してのトラブルも増加しており、保護者が知らないところでいろいろな問題に巻き込まれるという事例があることへの理解と啓発が求められる。

[問24] スマホなどのIT機器を子どもが使う時に 親子で何か約束を決めていますか。

[どれか1つに○]

[()は「小学校・中学校」]

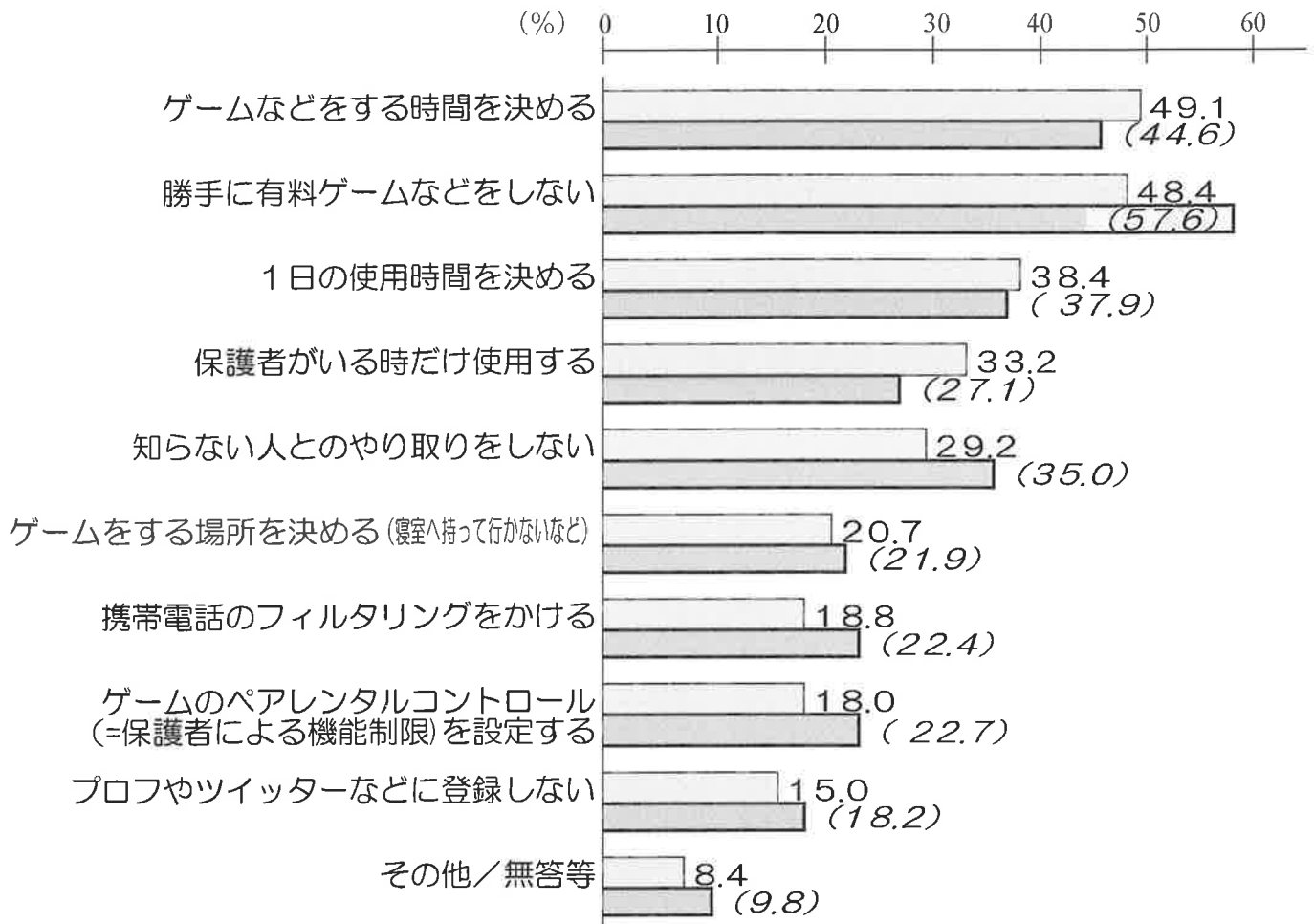
		(%)	園	小学校	中学校	計
1	はい 《決めています》 {問25以降へ}		46.8	74.5	64.9	64.1 (71.6)
2	いいえ 《決めていません》 {問26以降へ}		41.0	20.4	31.1	28.9 (23.6)
3	無答等		12.2	5.1	4.0	7.0 (4.8)
計			100.0	100.0	100.0	100.0 (100.0)

※ 何らかの機器を利用するとき「親子で約束をきめている」のは、全体で64.1%である。「問22」での『問題だと思うこと』の結果と照らし合わせると、家庭での【約束】はもっと多いことが求められる。

【問25】 「問24」で『1 はい』と答えた方へ
どのような約束をしていますか。

[あてはまるものに○]

[()は「小学校・中学校」]



【その他】の記載事項

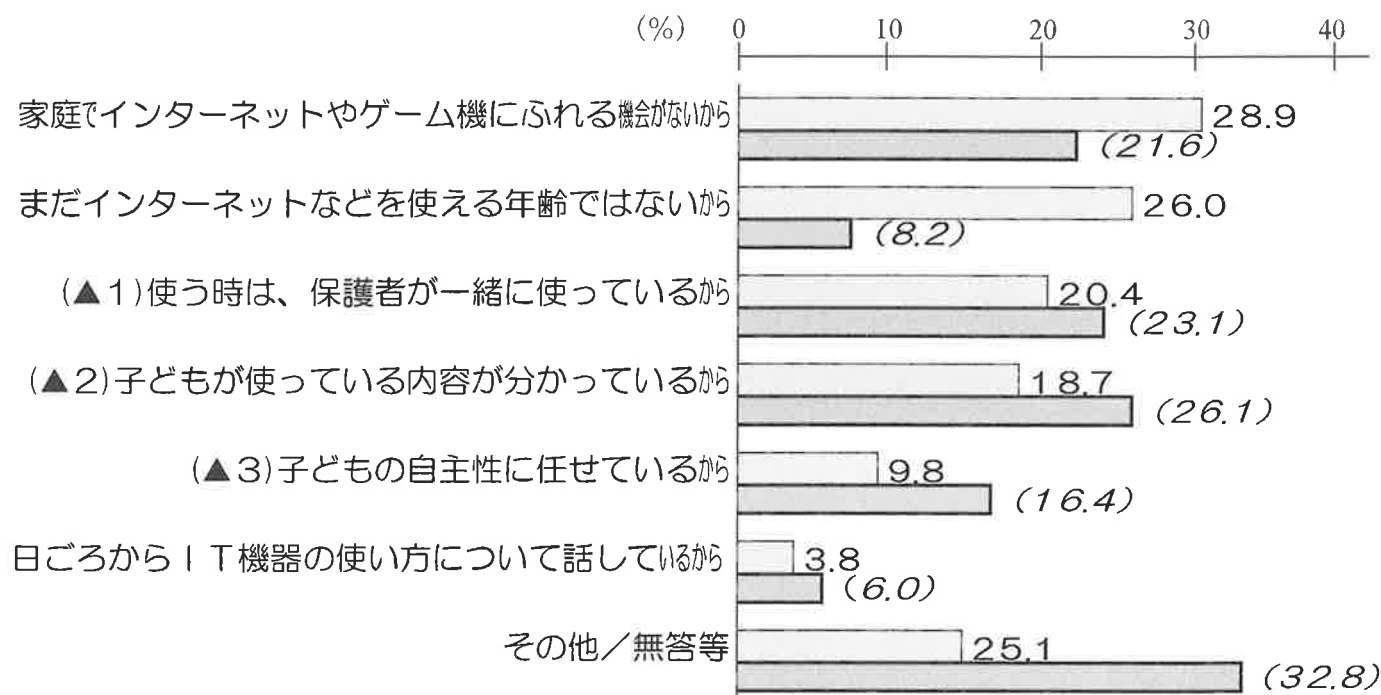
- 【園】
 - ・「使っていいよ」と親が言った時だけ使わせている。
 - ・ゲームをする曜日を決めている。
 - ・勝手に使用しないで、親と一緒にいるだけ1回か2回使って良いようにしている。
- 【小学校】
 - ・子どもが小さいので、使用させないようにしている。
 - ・親以外(友達など)と連絡先を交換しない。
 - ・使用しない日を決めている。
 - ・分からない画面になったらすぐに聞く。
 - ・親の目の前で、時間を決めて(10分くらい)ゲームをする。
 - ・勉強してからする。 ・電話だけに使用する。
 - ・インターネットにつながらないように設定している。
- 【中学校】
 - ・「土曜日・日曜日」だけ。 ・テスト前は禁止にする。
 - ・ネットを制限する。
 - ・使って良いかを尋ねて、OKだったら使う。
 - ・使っても良いと親が了承している。

※ 保護者それぞれの方針で「約束」が決められているが、インターネットでの不適切なサイトへの接続回避や有料コンテンツの制限などを設定できる「ペアレンタルコントロール(保護者による機能制限)」や携帯電話の「フィルタリング」を利用している割合が低い。保護者への啓発が求められる。

〔問26〕 「問24」で『2 いいえ』と答えた方へ
決めていない理由は何ですか。

[あてはまるものに○]

[()は「小学校・中学校」]



【その他】の記載事項

- 〔園〕
 - ・持たせていないので。
 - ・就学前で必要が無い。
 - ・今のところ使わせる予定はない。
 - ・なるべく使わせないようにしている。
- 〔小学校〕
 - ・持たせていない。
 - ・言っても聞かないから。
 - ・使用時に約束を決めている（毎回）。
- 〔中学校〕
 - ・決めただけ守らない。
 - ・持たせていない。
 - ・その時の判断で使用させている。
 - ・決めたいが、子どもが言うことを聞かない。
 - ・時間を決めてゲームをさせても、すぐ終われないということで、ダラダラとゲームを続ける。すぐに（短時間で）終わるゲームだったら良いのと思う。

※ 「▲1」「▲2」は、保護者の管理下での使用ということだが、日常の生活で、実際に子どもがどのように使っているか、保護者が掌握できない場面は少なくない。また、「▲3」のように『子どもの自主性に任せる』は意義深いことではあるが、トラブルが生じることも懸念される。各種機器等の普及と進化をみると、この分野での保護者の学びと対応が課題と言える。

島原市社会教育委員の会

(任期：平成29年4月1日から平成31年3月31日)

役 職	氏 名	備 考
委員長	金子 統太郎	学識経験
副委員長	中村 義則	学識経験
委 員	肘井 裕子	家庭教育
委 員	大町 範保	学識経験
委 員	石井 泰彦	学識経験
委 員	豊田 芳明	社会教育
委 員	佐藤 美由紀	家庭教育
委 員	村本 雅一	社会教育
委 員	森川 涼子	家庭教育
委 員	古瀬 彬	社会教育
委 員	永田 俊文	学校教育

〔社会教育委員の職務〕

第4条 委員は、島原市の社会教育に関し教育委員会に助言するため次の職務を行う。

- (1) 島原市の社会教育に関する諸計画を立案すること。
 - (2) 定時又は臨時に会議を開き教育委員会の諮問に応じこれに対して意見を述べること。
 - (3) 前2号の職務を行うために必要な研究調査を行うこと。
- 2 委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べることができる。
 - 3 委員は、教育委員会から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について社会教育関係団体・社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。

(「島原市社会教育委員条例」より抜粋)